

産業分野の事業紹介

1. 事業の背景

2018年版ものづくり白書¹⁾によれば日本国内のすべての主要業種で今後3年間の業績（営業利益）が増加傾向にあり、昨年度よりも明るい見通しとなっている。設備投資意欲も高く、投資額は上昇傾向にある。また、海外で生産を行っている企業のうち14%が過去1年間で生産拠点を国内に戻している。国内回帰の比率は昨年度と同水準であり、近年継続してみられる傾向である。国内回帰の理由は海外の人件費の高騰やリードタイムの短縮、品質管理の問題が上位を占めている。

生産拠点の国内回帰および少子化に伴う労働人口の減少によって人材確保が課題となりつつあり、人事制度の見直しや多能工化とあわせ、ロボット、IT、IoT、AI等を活用した自動化、効率化への期待が高まっている。

日本の産業がめざす姿として経済産業省が「Connected Industries」というコンセプトを提唱した²⁾。これは第4次産業革命で生み出された技術を用いて異なる業種、異なる国の企業や人をつないだり、これまで関わることのなかった人やものをつないで人手不足やエネルギー問題などの社会課題を解決しつつ産業競争力を高めていくという考え方である。Connected Industriesの重点取組分野の一つが「ものづくり・ロボティクス」である。今後、製造業のスマート化の加速と、他業種企業と連携した新たなビジネスの創出が進むと考えられる。

(株)日立ソリューションズ東日本（以下、HSEと記す）は創立当初より(株)日立製作所の研究所や、東北大学をはじめとする大学の協力を得ながら生産シミュレーションやAI分野の研究開発に取り組んできた³⁾。現在も継続して自社技術の強化やユースケースのLumada⁴⁾登録を進めている。これらの技術を背景に産業分野の事業拡大を図っている。

2. 事業の方向性

HSEでは、「地域事業」「日立グループ連携事業」「全国/グローバル事業」の3つの柱からなる事業ドメインで活動している。（図1）



図1 3事業ドメイン

2.1 地域事業

HSEでは、北海道・東北への社会貢献をすべく、地域の産業分野の企業向けにシステム開発、プラットフォーム構築、運用・保守と多岐に亘るソリューションを展開している。

北海道・東北の市場は回復基調にあるものの、大きな成長が見込めない状況である。しかし、得意分野のソリューションの更なる展開、既存技術と新しい技術との融合による新たなソリューションを提供していくことにより、事業拡大と共に地域産業にも貢献していく。

2.2 日立グループ連携事業

HSEは日立グループの一員として、(株)日立製作所や(株)日立ソリューションズと連携し、日立グループとして、お客様に様々な価値を提供していく。

HSEの得意分野のソリューションをグループを經由して積極的に提供すること、プロジェクトの中で得意分野を請け負うことによって、お客様と日立グループへ貢献していく。

2.3 全国/グローバル事業

企業が付加価値を生むためのバリューチェーン（開発・製造・販売・サービスなどの一連の流れ）の中で、HSEは特にサプライチェーンマネジメント（SCM）、エンジニアリングチェーンマネジメント（ECM）、可視化・分析（アナリティクス）の3分野で、計画、可

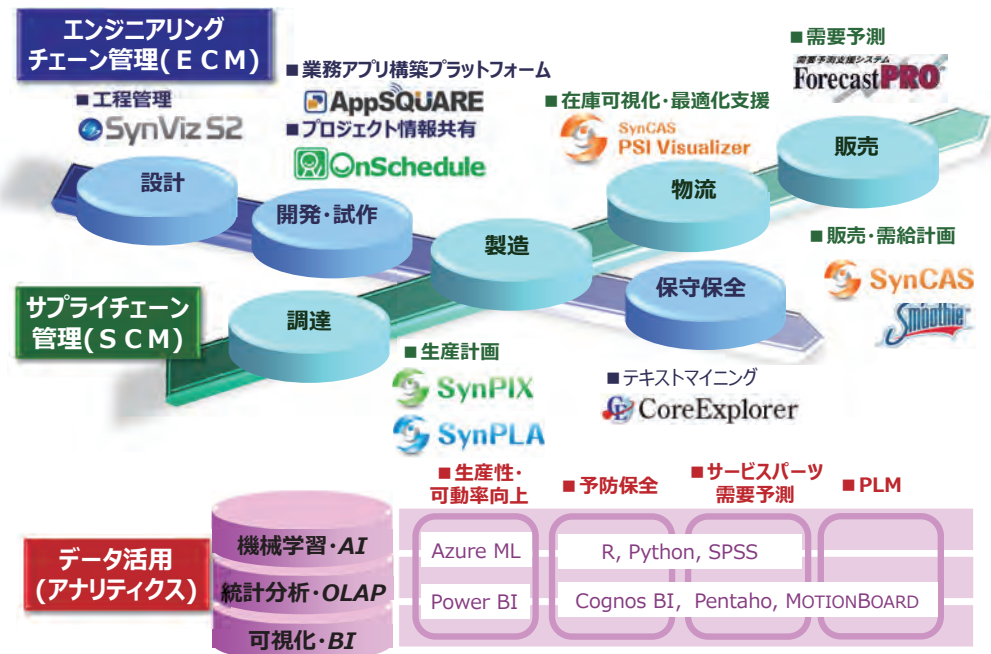


図2 産業分野の主なソリューション・製品

視化、分析、意思決定支援のソリューションを全国の企業に提供している。各分野の主なソリューション・製品を図2に示す。

3. 今後の事業展開戦略

3.1 地域事業

北海道地区では食産業を主なターゲットとして、「生産者から消費者」に関わる農業、物流、食品の3つの分野でソリューションを展開している。農業分野ではこれまでの地図ソリューション（GeomationFarm）の適用範囲を広げ、受注拡大を図っている。物流・食品分野では、販売管理ソリューションを拡販してきている。今後は、これまで培ったソリューション、ノウハウから新たにソリューションを創出し、事業を展開していく。

東北地区では製造業、流通業の2つの分野で活動をしている。東北地区の製造業は中小規模の企業が多く、中小規模の製造業向けに開発した生産管理システムを拡販している。今後は東北地区だけでなく、全国へ展開し、更なる拡大を図る。

流通業では消費者の多様なニーズに応える形で規模を拡大しているドラッグストア向けに、システム開発、運用・保守の対応をしている。

また今年度、大手スーパーマーケットの発注管理システムや配送システムを受注しており、これらの開発ノウハウを蓄積し、ソリューション化し、東北のみならず、全国のスーパーマーケットへ展開を図っていく。

3.2 日立グループ連携事業

日立グループとの連携においては、(株)日立製作所、(株)日立ソリューションズと事業戦略を共有しながら、これまでの実施してきた人的な貢献、HSEのソリューション・サービスの提供や連携施策を積極的に進め、日立グループの事業拡大に貢献していく。

また今後ニーズが高まっていくIoT、RPA、AIなどのデジタル技術を活用した新たなソリューションやサービスを主要ソリューション・製品に取り入れる研究や開発を加速していく、お客様へ新たな価値を提供していく。

3.3 全国/グローバル事業

3.3.1 SCM分野

HSEの得意とする需要予測（需要計画）、供給計画、さらにその領域をつなぐ需給計画ソリューションを提供しており、HSEならびに日立グループ全体としてのSCM分野の事業の強化と拡大を狙う。製品ごとの主な戦略は以下のとおりである。

- ・ 標準導入パターンを確立し、供給計画ソリューションとの連携を強化する。（SynCAS）
- ・ ターゲット（海外販社全般・ホビー用品・スポーツ用品メーカー）とSEレス導入パターンを定め、拡販体制を強化する。（Smoothie）
- ・ 国外も含めて販売パートナーの支援メニューを拡充し、間接販売を加速させる。（SynCAS PSI Visualizer）

- ・得意領域（プロセス製造、自動車、食品、医薬など）を持つアライアンス先との協業を強化する。また、HSEの強みを再整理し、次期供給ソリューションの構想を策定する。（SynPIX, SynPLA）

3.3.2 ECM分野

ECM分野では、設計・開発・製造工程での日程・リソース調整を行う工程管理ソリューションと、各業務プロセスで発生する業務データや成果物を一体化して蓄積・管理し、業務プロセスを効率化するためのソリューションを提供している。ソリューションごとの主な戦略は以下のとおりである。

- ・自動車（電気・機械分野）の設計・量産準備の工程管理、工事・施工の分野の日程・要員計画を主なターゲット領域として、販売パートナーとともに販売の拡大を図る。（SynViz S2）
- ・個別受注生産向け工程管理、システム開発向けプロジェクト管理のソリューションを開発し、販売の拡大を図る。また、SynViz S2やCoreExplorerとの連携を強化する。（AppSQUARE）
- ・テキスト解析部分のAPI化により他製品との連携を一層強化する。また、大規模データに対応し、要約抽出や音声利活用ソリューションを展開する。（CoreExplorer）

なお、これらの製品は汎用性が高く、製造業のECM分野以外にも、様々な業種・業界分野で導入が期待できる。

3.3.3 アナリティクス分野

アナリティクス分野では製造業を中心に公共・金融・サービスなど様々な業界に対してデータ分析、AI活用、情報の見える化のソリューションを提供している。今後はSCM分野、ECM分野ソリューションと連携し各分野で蓄積されたデータの分析による自社ソリューションの顧客価値向上とともに、Connected Industriesのコンセプトに沿って産業の競争力強化につながるソリューション展開を進める。主な戦略は以下のとおりである。

- ・IoTとAIを活用した製造業向け生産状況の見える化と生産性向上（予防保守、可動率向上）ソリューションの拡販を進める。またIoTで収集したデータを活用したSCM分野ソリューションとの連携（実績取り込み、マスタデータ精度向上など）を進める。
- ・SynViz S2やAppSQUAREなどECM分野ソリューションで蓄積された個別受注、試作、研究開発のデ

ータの分析や、AI活用の検討、開発を進める。

- ・IoT, AI, アナリティクス対応人材の育成を強化する。統計、機械学習のスキルを持ち、かつ顧客業種・業務の知識を持ったアナリストを増やし、体制を強化する。

またレベニューシェア⁴⁾などの新しいビジネスモデルの検討も進めている。今後も日立グループと連携して産業分野のアナリティクス案件の受注拡大を図る。

以上のように今後も各分野で培った技術・ノウハウ・人材を融合し、顧客企業の経営資源の最大化と意思決定の迅速化、そして企業が新しい付加価値をその先の顧客にサービスやソリューションとして提供できるよう、事業を推進する。

参考文献

- 1) 経済産業省、厚生労働省、文部科学省：2018年版ものづくり白書，2018年5月
- 2) 経済産業省：「Connected Industries」東京イニシアチブ2017，2017年10月
- 3) 横田：「日立TO技報」創刊にあたって，日立TO技報創刊号，1995年
- 4) 日立製作所：IoTプラットフォーム Lumada，<http://www.hitachi.co.jp/products/it/lumada/>，（2018年9月3日閲覧）